

# 仕合わせの和



第253号

令和5年4. 1  
(毎月1日発行)

## 小欲知足

(欲を少なく足(る)を知る)

住職 谷川寛俊

人間、誰にでも欲はあります。無欲では生きていくことは出来ません。食欲がなければ体力の維持は出来ず、睡眠欲がないと死んでしまいますし、性欲がないと大切な子孫の保持が出来ません。

また向上心、すなわち知識欲や出世欲などの欲もないと、文明や社会の進歩はありません。欲はパワーの源でもあります。しかし、ここでいう欲はそういう欲求ではなく「欲望」を言います。

つまり、贅沢な欲望を持ち過ぎず、現状での満足を知ることが大切だということ。それが小欲知足です。

ほげきょう ふげんぼさつかんぼんだいにじゅうはち  
(法華経の普賢菩薩勸発品第二十八)

食べ放題だからと言って、遠慮なく取り過ぎて、もつたいなくも、食べ残してしまふことが良くあります。

食事の時は、合掌して、“いただきませ(あなた)の命を”と、一粒の米も、一滴の水も無駄にはしませんと誓う。それがどうでしょう・・・反省しきりです。

インドの仏跡参拝に行った人の話を聞くと、日本人を見つけると、必ず物売り、物乞いに付きまとられるそうです。しかしこれがシーズン初めとシーズン終わりでは、様子が少々違います。シーズン終わりには、そのシーズンに稼いだ者はあまり寄って来ないと言います。

つまり、年がら年中食欲ではなく、「これでよし」とすることを知っているので。農作業は、日本の五十年前の風景だと言います。

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。

でも現地のガイドさんが言うには、確かにインドはほこりっぽく、清潔とは言えないし、貧乏な国かもしれないが「貧しくはない」といいます。

つまり、足りることを知っているのです。日本のように大量消費に伴うゴミの大量投棄はないのです。そういう点では日本人の心の方が、劣っているかも知れません。

考えてみれば、「エコ」とか、「地球に優しく」なんていうフレーズが言われたら、早や20年ほどが経過すると思えますが、それでもまだまだ温暖化の波が止まることをしりません。

地球上の生物の中で、環境破壊しているのは人間だけです。他の動植物は大自然の一部としてじょうずに共生し合っています。そして私達も大自然の一部です。そんな大自然の一部でもある私たち人間も、他の動植物との共生を意識した生活を送りたいですね。

